関口雅文《輝く明日の風になれ》2025 キャンバスに油彩 F100

新潟県文化祭 Nippona Niigata

# 関口雅文展

## ～まほろばの煌めき～

2025年
10月3日[金]～11月30日[日]

▶開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）　▶休館日：火曜日
▶入館料：一般500円、小・中学生200円　※団体（20名以上）各50円引き
※障がい者手帳（ミライロID含む）提示で各100円引き

星と森の詩美術館
〒948-0101 新潟県十日町市稲葉1099-1　TEL 025-752-7202
http://www.hoshi-uta-m.jp　FAX 025-752-7203

1

# 関口雅文展 ～まほろばの煌めき～

2025年 10月3日[金]～11月30日[日]

関口雅文　（せきぐち・まさふみ）

1970　3月 新潟県十日町市に生まれる
1994　東京藝術大学絵画科油画専攻卒業
・個展開催（仲通りギャラリー／横浜市）以降各地で個展・グループ展開催
・第70回白日会展に初出品【一般佳作賞】会友推挙　以降毎年出品
1996　東京藝術大学大学院油画技法材料研究室修了
・第72回白日会展【会友奨励賞】準会員推挙
1997　・第73回白日会展【安田火災美術財団奨励賞】　'98 会員推挙
2006　・第82回白日会展【文部科学大臣賞】【アートもりもと賞】
2009　・第85回白日会展【梅田画廊賞】
2010　・個展《空の見える風景～ 関口雅文油彩展》開催（星と森の詩美術館）
2022　・第98回白日会展【伊藤清永賞】
現 在　東京都在住　白日会会員　時のかたち同人
武蔵野美術大学通信教育課程教授

雪を思わせる白い平原を分けるように、空の色を映す川の流れは蛇行しながら遥か彼方にのびて行く。画面から春の匂いを感じるのは、黄色く染め上げられた空のせいなのか、それともいつか見た風景の記憶が呼び起こされるからなのか――。

当館では15年ぶりとなる**関口雅文**（1970-）の個展を開催いたします。前回2010年の個展の際に、関口はこんな言葉を寄せてくれました。

「 … 確かに、我が故郷には派手な色の鳥が飛んでいたわけもなく、熱帯魚の様な鮮やかな色の魚が川を泳いでいたわけもない。でも『あなたの色彩が何処で育まれたのか？』と問われれば、僕にはどう考えてもこの十日町しか思い浮かばない。　…（中略）…　ここでは水や空気までも美しく、ここに暮らす人々も限りなく澄んでいて、何もかもが美しい。そんな『まほろばの地』で僕は育った。 … 」

ここ十日町で暮らしている身にとっては、正直面映ゆく感じる部分もありますが、故郷にこんなにも美しい心象風景を抱いていてくれる人がいるということに、少なからず誇らしさも覚えます。陰鬱な灰色の空の印象に囚われがちな雪国も、関口が描く雪景色には何もかもを奪い去るような凍てつく寒さではなく、見守られているかのようなあたたかさを感じます。その景色は幻想に近いものなのかもしれませんが、世界はこれほどに美しい光に溢れているのかという希望をくれるのです。

今展では新作を含め40点余を展覧いたします。関口が描き出す色彩の世界への旅をぜひお楽しみください。きっと晴れやかな希望が沁み通って行くことでしょう。

2

3

4

5

### ▶ 関口雅文さん ギャラリートーク開催

日時：①10月 4日[土]14時～
②11月22日[土]14時～
会場：星と森の詩美術館 展示室
※入館料が必要です

1　《春に流れる時の色》2025 キャンバスに油彩 F100
2　《輝く森の深呼吸》2024 キャンバスに油彩 F30
3　《希望に溢れる光の世界へ》2022 キャンバスに油彩 F20
4　《そよ風の道草》2025 キャンバスに油彩 F8
5　《踊るリズムはトロピカル》2024 キャンバスに油彩 F8

星と森の詩美術館
〒948-0101新潟県十日町市稲葉1099-1　TEL 025-752-7202　FAX 025-752-7203　http://www.hoshi-uta-m.jp

■開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
■休 館 日：火曜日
■入 館 料：一般500円、小・中学生200円

［交通アクセス］ ◆ JR飯山線・ほくほく線「十日町駅」より車で10分
● 関越自動車道「越後川口IC」より R117経由25分
● 関越自動車道「六日町IC」より R253経由35分
● 北陸自動車道「柏崎IC」より R252経由50分
● 北陸自動車道「上越IC」より R253経由70分